

トピックス…②

JIDF、平成25年10月に横浜で ワールドデイレースミット2013開催

国際酪農連盟日本国内委員会（JIDF）が主催し、国際酪農連盟（IDF）が共催する「ワールドデイレースミット2013」が平成25年10月に横浜市で開催される。今号ではIDF、JIDFの概要とサミットについて紹介する。

● JIDF、日本の酪農乳業発展に大きく寄与

IDFは1903年にベルギーのブリュッセルに設立された。現在の加盟国は52カ国。酪農乳業関係者が国際社会で共通している諸問題の解決を目指すため、加盟国間で意見交換しつつ、消費者の栄養、健康、幸福に寄与し、良質な生乳の生産と乳製品の開発普及に努め、科学的、技術的、経済的発展の推進を目的とした非営利的で非政治的な国際団体。

日本は1956年に日本国際酪農連盟として加盟、1962年には農林大臣から社団法人の認可を受けた。その後、行政改革の一環として、より効率的で効果的な支援が提供できる団体作りが強く求められたことから、2004年5月に社団法人を返上。国際酪農連盟日本国内委員会と改称し、財団法人日本乳業技術協会の中に独立した組織として位置づけられた。2011年5月現在の会員数は団体会員52、特別会員1、個人45。

JIDFの業務は①IDF関連②FAO(国連食糧農業機関)／WHO(世界保健機関)食品規格委員会関係③牛乳乳製品などのISO規格関係④2013年IDFワールドデイレースミット日本開催関係一の4つに区分されている。

JIDFは発足以来、酪農乳業に関する豊富な国際情報を積極的に会員に提供すると同時に、日本が世界に誇る関連の学術研究や技術の成果を発信しつつ、世界の酪農乳業界における日本の地位を高め、我が国における酪農乳業の発展にも大きく寄与している。

● 牛乳の再認識をテーマに横浜で5日間開催

IDFワールドデイレースミットは、1903年のIDF設立から毎年1回、総会と同時に開催されている歴史が長い会議。日本では1972年と1991年に東京で開催され、今回で3回目となる。

サミット2013の日本開催は、2009年のIDF総会で決定した。これを受け、JIDFは組織委員会（委員長・田中要株式会社明治特別顧問）を設置。同委員会の下に企画、財務・広報、プログラムの各小委員会を立ち上げ、サミットの具体的な内容を検討している。サミットのテーマは、「Discover Milk Again Given by Mother Earth」（牛乳の再認識—母なる大地からの贈り物—）。国際化が進む中で、今後の酪農乳業は、食糧需給、飼料、環境、エネルギー、家畜の疾病予防、家畜福祉などの諸問題について、国際社会と協調していくことが不可欠となっている。このような情勢の下、サミットでは、我が国や世界の最新の酪農乳業に関する市場の動向や諸問題の解決への手がかりとなる新たな科学技術などについての情報交換と研究開発を支援する場を提供する。

日程は、23年10月28日から11月1日までの5日間、横浜のパシフィコ横浜、パンパシフィック横浜ベイホテル東急で開催される。28日にサミットの開会式、29日には世界的な乳業メーカーのCEO（最高経営責任者）が講演するワールドデイレースミットフォーラムを開催するほか、最終日まで各国の研究者による一般講演や情報交換、日本の乳業工場や酪農家などを視察するテクニカルツアーを行う予定。サミットの参加者は海外の加盟50カ国から650人（同伴者100人含む）が来日し、日本側の参加者200人と合わせて850人の参加を見込んでいる。JIDFでは「今回のサミットには、乳業メーカーだけでなく、日本の酪農家も積極的に参加してもらいたい」としている。